

「笠利中学校の大笠利八月踊り伝承活動の取組」

1. 学校名	奄美市立笠利中学校
2. 学年・人数	中学1年生から3年生 計29人
3. 日時・場所	令和7年9月13日（土）本校上部校庭
4. 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について	<p>(1) 名称 大笠利八月踊り（おおがさりはちがつおどり）</p> <p>(2) 由来起源は定かではないが、按司の世（約700年前）からあったのではないかとされている。旧暦の8月を「新年」ととらえ、「アラセツ（新節）」「シバサシ（柴挿し）」「ドンガ（嫩芽）」といった新年の行事で踊られてきた八月踊り。豊かな実りに感謝し、来年の豊作を願う「祝付け」の踊りである。</p> <p>(3) 構成等 男衆と女衆のそれぞれの「唄出し」と「太鼓（チヂン）」から輪を描く。太鼓（チヂン）を叩くのは、ほとんどが女衆。そのリズムに乗り、男女が島唄を交互に唄いながら八月踊りを踊る。テンポは最初はゆっくり、だんだん速くなって、最後は手足がもつれるほどに盛り上がる。そして、八月踊りの最後は、六調（ろくちょう）で締めくくる。</p>
5. 文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	<p>体育大会で発表の場を設定し、総合的な学習の時間（かさり学）で練習を行っている。輪番制で大笠利の3集落（城前田、里前、金久）が担当し、集落の方々の指導を受けている。体育大会では、生徒・職員・保護者・来賓・地域の方々が、みんなで輪になって踊った。</p> <p>学校と地域が連携協力しながら八月踊りを伝承していくために、学校（担当）と地域（区長）の連絡を密に行っている。また、生徒たちは地域で行われる旧暦8月9～11日の「アラセツ（新節）」と15～17日の「シバサシ（柴挿し）」にも、生徒、職員が積極的に参加している。</p>
6. 取組の様子（練習状況、発表の場等）	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>八月踊り練習（体育大会予行）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>八月踊り（体育大会当日）</p> </div> </div>
7. 感想・意見（参加児童生徒・保護者・保存会・教員等）	<p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前の練習時間が少なかったが、生徒たちが八月踊りを踊りこなせることに驚くと同時に、地域の文化が引き継がれていることに驚いた。 <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 八月踊り、感動しました。これからも続けていけたらいいと思います。 ・ 体育大会の開始時に合わせて来場者へ呼びかけ、全員が踊りに参加できれば、もっとよいと感じた。